

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	幕張新都心若葉住宅地区小学校(仮称)	階数	地上3F
建設地	千葉県千葉市美浜区若葉3丁目1番26	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、防火指定なし	平均居住人員	990 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,880 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2024年1月25日
敷地面積	18,314 m ²	作成者	(株)千都建築設計事務所
建築面積	4,073 m ²	確認日	2024年1月25日
延床面積	8,385 m ²	確認者	(株)千都建築設計事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.4

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 建物をコンパクトにまとめ、地域との接点・外部との繋がりを生み出す交流広場「わかばプラザ」を計画。広場とつながるプロムナードを整備し、地域に開かれた開放的な屋外空間を創出する。広場や接道部は緑化に努め、緑のネットワークを構築、景観に配慮した計画。内外装共に木調素材の取入れや、屋外空間を建物内へと取り込む工夫など、明るく開放的で居心地の良い学校を目指した。		光庭を建物中心に設け、自然換気・自然通風に配慮した。
Q1 室内環境 天井に吸音材を使用。Low-e複層ガラスやバルコニーの設置、高性能断熱材を用いて日射遮蔽及び断熱性能を確保。普通教室は壁一面に開口部を設置。一部特別教室にハイサイドライトを採用し、十分な採光を確保。	Q2 サービス性能 バリアフリー新法の建築物移動円滑化基準(最低限のレベル)を満たしている。普通教室の天井高が2.7m以上とする。一部に内装木質化を施し、図書空間の重点演出、内観パースによる事前検証を行っている。	Q3 室外環境(敷地内) 緑化基準を満たす。景観計画区域内の建築物として街並みに配慮した外観としている。オープンテラスやデッキテラスを設置し、開放的な空間を創出している。
LR1 エネルギー [BPI] _m = 0.62 [BEI] _{[BEI]_m = 0.64 ハイサイドライトや自然空気換気窓を採用し、自然エネルギーを活用する計画。}	LR2 資源・マテリアル 主要水栓に自動水栓(トイレ手洗等)大便器6L/回、小便器4L/回以下で計画。乾式工法による外壁や構造部材はボルト接合により、部材の再利用可能性を向上している。吹付け硬質ウレタンフォームはノンフロン材を使用している。	LR3 敷地外環境 雨水流出抑制(平均流出係数0.54)を行い、地域インフラへの負荷を抑制している。敷地内に適切な量の駐車場を設置し、交通負荷を抑制している。騒音・振動・悪臭は法基準を満たしている。日影規制においても法規制を満たし、周辺環境に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される